

一般財団法人 みやぎん経済研究所

産業開発部門



株式会社 川崎電子
代表取締役 川崎 大輔
都城市豊満町1520-1

事業内容 産業用ロボットハーネスの製造・販売

当社は産業用ロボットハーネスの製造を手掛けており、県内トップクラスの実績を誇る。当社の強みは米国の認証機関が認めた「UL認証」を取得しており、海外、特に米国向けの輸出に対して優位性を持っている点にある。また、その技術力は国内大手メーカーからも高い信頼を得ている。特に、半導体製造向けの産業用ロボットは世界的にも需要が高まっており、その主要部品である当社の高品質ハーネスも大いに成長が見込まれる。今後は産業用ロボットの製造も手掛け、人口減少による人手不足の解消に寄与し、社会に貢献していく。

地方創生部門



株式会社 たくぼ
代表取締役 甲斐 陽一郎
西臼杵郡日之影町大字七折13782-2

事業内容 地元文化を基礎にした、しめ縄・わら細工製造

当社は縁起物わら細工を製造販売しており、2022年には「宮崎県伝統工芸品」に指定されている。当地区には古来より「しめ縄文化」が根づいており、当社も祖父の代より60年以上の伝統を守り継ぎながら、地元伝統工芸の継承に貢献している。「稲わら」と「青わら」の2種類の特徴を活かし、デザイン性の高いインテリア製品としてのクオリティが評価され、2023年の「宮崎G7農相会合」の要人へのお土産としても採用された実績を誇る。ヨーロッパを中心に海外からの注文も徐々に増えており、高千穂の伝統工芸が世界に広まることを期待される。

学術研究部門



宮崎大学 教育学部
教授 若林 上総
宮崎市学園木花台西1-1

事業内容 称賛支援アプリ開発が学校風土に与える影響

同教授は、学校で日常的に行われている子どもへの「称賛」や「認める関わり」を記録・可視化するアプリケーションの開発事業に取り組んでいる。アプリケーションは、教員に加えて地域住民が子どもたちにポジティブな関わりをもつ機会を生み出し、その関わりが記録として残る仕組みを構築する。記録は学校で振り返る材料ともなり、子どもの学びと成長につなげることができる。この事業を通して、学校と地域が協働して子どもを支える新たなモデルの創出が期待される。

宮崎銀行 ふるさと振興助成事業

【2025年度】第44回

〈宮崎県〉

助成先 決まる

ごあいさつ

宮崎銀行ふるさと振興助成事業の助成対象となられた皆さま、誠におめでとうございます。

宮崎銀行ふるさと振興助成事業は、株式会社宮崎銀行が創立50周年を記念して、地域産業の振興と発展に貢献することを目的に開始し、これまでに宮崎・鹿児島両県で累計389先に3億3,420万円の助成を行っております。今回の助成につきましても、皆さまの取り組みや研究が地域の発展に大きく貢献していくと確信しており、また皆さまの活動を一層飛躍させる一助になれば幸いです。

今後も本助成活動を通じ、地域の皆さまの活動・研究を支援していくとともに、助成先の皆さまの更なる発展を心より祈念いたします。

一般財団法人 みやぎん経済研究所
理事長 杉田 浩二

産業開発部門



株式会社 シンコー
代表取締役 結城 啓太
都城市高城町大井手1945-1

事業内容 ゴム精練技術の向上に向けた取組み

当社は、車両用及び工業用ゴム製品の原料となる「練りゴム」の製造において国内でトップクラスのシェアを誇る。当社の強みは国内大手タイヤメーカーからの細かな注文に応える配合技術、混合技術を有し、他社との差別化を図っている点にある。また、生産工程の自動化、省力化にも取り組んでおり、技術力に加えて生産効率の高さでも優位性を持っている。2026年12月に完成予定の新工場が本格稼働となれば、現在の2倍の生産体制が整うことになり、当社及び地域経済の更なる発展が期待できる。

ベンチャー企業部門



マイクロエース株式会社
代表取締役 柳 義一
宮崎市花ヶ島町京上1411-1

事業内容 半導体製造工程におけるフォトリソ除去装置の開発

当社は従来より、金属表面処理（めっき表面処理）の分野で高い技術力を発揮しており、今般、新規事業として半導体製造工程の一部であるフォトリソ除去装置の開発に取り組んでいる。この装置は硫酸を電気分解して強酸化剤を作る電解硫酸技術を基に開発され、薬液の使用量を減らせるだけでなく、発生するCO₂も削減でき環境保全にも貢献している。また、この技術は特許を取得しており、競合ひしめく半導体関連業界においても有望な開発であることから、将来的にも大きな成長が見込まれる。

学術研究部門



宮崎県総合農業試験場 作物部
部長 三枝 大樹
宮崎市佐土原町下那珂5805

事業内容 普通期主食用水稲「ひなた舞（南海189号）」の育成

当試験場では、主食用米や加工用米、飼料用米など様々なニーズに応える水稲品種の開発に取り組んでいる。1989年に当試験場が開発した「ヒノヒカリ」は、近年、高温の影響により、品質が低下しており、暑さに強い新品種が開発が求められていた。当試験場では、温暖化の進行を見据え、2011年に交配を開始し、約1,500個体の中から有望な系統を選抜し、現場の評価も得ながら、高温耐性を備え、食味もヒノヒカリ並みに優れた新品種「ひなた舞」を開発した。本品種は米生産の安定化に貢献していくことが期待される。